

答 申 書

平成 30 年 8 月 24 日

江津市長 山 下 修 様

江津市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
会長 久保田 典 男

平成 30 年 7 月 17 日開催の第 1 回江津市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会にて諮問のありました「まち・ひと・しごと創生 江津市版総合戦略」の実効性ある計画の推進について当審議会で慎重に審議を行った結果、下記のとおり答申します。

記

まち・ひと・しごと創生 江津市版総合戦略

<基本目標 1 「生業を増やし安定した雇用をつくる」>

数値目標として「新規雇用を 5 年間で 200 人確保する」とされているが、企業誘致や新規就農者等の確保に加え、地域産業の活発な動きにより、最終年の 2019（平成 31）年度を待たず、目標値を上回る雇用数が確保されていることは、大変評価できる。

今後は、若者の夢が膨らむような先端技術を備えた企業の誘致や、U I ターン者等が自らの夢や経験を活かした起業等のチャレンジを後押しするインキュベーション施設の開設など、魅力ある仕事や創業機会の創出を図られたい。

基本施策「観光産業の推進」については、温泉施設等の減少に伴い、宿泊客数や入込客数が大幅に減少するという厳しい状況にあるため、今後において、既存の観光資源の活用の見直しなどを検討していただきたい。

<基本目標 2 「住みたい！住み続けられる江津をつくる」>

数値目標として「2020 年には年間の社会減少を 80 人以内に抑える」とされているが、人口の社会減は、2015（平成 27）年度 130 人、2016（平成 28）年度 108 人、2017（平成 29）年度 101 人と抑制傾向となっているため、引き続き、各施策を着実に推進されたい。

基本目標1に掲げた雇用の確保が堅調である一方で、企業等の人手・人材不足が顕在化しており、企業が雇用環境の改善等魅力化を推進するとともに、その魅力を若年世代等に発信することの重要性が増している。

市内高校卒業者の市内企業就職率は年々上昇傾向にあるので、引き続き取り組みを推進していただきたい。例えば、「ふるさと・キャリア教育」において、江津で生まれ育った若者に市内企業の経営者や起業家の仕事や生き方に対する考え方を直接伝える場をつくることは、地元志向を促すことに効果的であるので、より一層推進されたい。

また、人材の確保という観点から、外国人や主婦などといった多様な人材の受け入れが可能となる雇用環境の整備を進めることも検討されたい。

まちの活力を維持するため、定住人口や交流人口に替わる新たな概念として「関係人口」と「活動人口」を確保することが、全国的な潮流になりつつある。

江津市では、GO▶つくる大学（市民大学）等の新たな事業で関係人口・活動人口づくりに取り組まれているが、その効果検証が課題である。

事業により創出した関係人口や活動人口が本市にどのような好影響を及ぼしたか、個別の事例を見える化し、評価・検証する仕組みをつくることが、今後のまちづくりの一助になると考える。

<基本目標3「子どもたちの未来を地域みんなで育む」>

基本目標3では、数値目標として「2020年に合計特殊出生率を1.74以上に引き上げる」「子育て支援充実の満足度を50%に引き上げる」というハードルの高い目標が掲げられている。

現在、待機児童0（ゼロ）を維持されているが、保護者の声を聴くと必ずしも希望する保育所に入所できていない状況がある。

この現状は、子育て支援充実の満足度にも反映してくると思われるため、希望する保育所への入所については、特段の配慮を求めたい。

また、基本目標1の基本施策にも掲げられている「安定した雇用の確保」という観点から、まずは、保育士の確保に関する施策を強化し、仕事と子育ての両立支援のための保育環境の整備に努めていただきたい。

<基本目標4「自助・共助・公助による安心・安全な暮らしを実現する」>

重点施策として「中心市街地の活性化」を掲げているが、施策評価点数が他の施策評価に比べて低い状況である。

これは、江津ひと・まちプラザの利用者数が年間の目標数を大きく上回る状況であるにもかかわらず、駅前通りの通行量や周辺商店街の経済活動への波及効果が伸び悩んでいるという状況を反映した結果である。

この評価を踏まえると、駅前のにぎわい創出については、未だ途上であり、プラザ利用

者の周辺商店街への回遊性を高める取り組みに期待したい。

地域公共交通のネットワーク化については、JR 三江線廃止に伴う代替交通の整備に併せて、中心市街地を巡回するバス路線の運行を始められたが、市民生活の利便性を高めるため、或いは、中心市街地のにぎわいを創出するという観点から、ルートや運行ダイヤの充実について引き続き検討されたい。

<総評>

江津市版総合戦略は、2040年の目標人口を17,300人程度、計画最終年の2020年の目標人口を22,539人に設定されており、途中経過の2017年の目標推計人口は23,526人としている。

これに対し、同年の実績値は23,830人（島根県人口移動調査）であり、推計値を304人上回る結果となったことは、総合戦略に掲げた取り組みの成果が着実に現れているものと評価する。

4年目を迎える本年度については、この3年間の事業効果と人口動態等の推移の関係性を十分に分析し、各事業の内容について更に精査し、最終年度の目標達成に向けて着実に計画を推進していただきたい。

資料

(1) 江津市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員

○	今井久師 (いまい ひさし)	産	(株)今井産業 代表取締役
	牛尾雅弘 (うしお まさひろ)	民	江津市子育てサポートセンター事務長
◎	久保田典男 (くぼた のりお)	学	島根県立大学総合政策学部教授
	田中輝美 (たなか てるみ)	言	ローカルジャーナリスト
	野津建二 (のつ けんじ)	官	島根県政策企画局長
	森山芳宏 (もりやまよしひろ)	金	山陰合同銀行 江津支店長

※◎会長 ○副会長

敬称略(50音順)

(2) 審議会の審議状況

第1回会議	2018年 7月17日	江津市版総合戦略施策評価・KPI評価について 審議
第2回会議	2018年 8月9日	「江津市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 答申書」内容について審議